

技術士 2 次試験に合格して



江本 啓二

(えもと けいじ)

勤務先

萩原建設工業株式会社

土木部

〒080-0807 帯広市東 7 条南 8 丁目 2 番地

TEL 0155-24-3030 FAX 0155-20-2566

E-mail emoto.keiji@hagiwara-inc.co.jp

■ 専門：建設部門(施工計画、施工設備及び積算)

1. 自己紹介

私は 1977 年生まれで、大学では土木工学を学びました。大学卒業後、現在の会社に入社し、主に北海道開発局や北海道発注の道路、河川、農業、港湾に関わる土木工事において施工管理業務に従事しています。

2. 受験の動機

技術士は、技術系の資格では最高峰であると大学在学中に知りました。そして、在学中に一次試験を受験しましたが、散々な結果でした。

入社してからは、技術士の資格を取りたいという思いはありましたが、当時は朝早くから夜遅くまで現場で業務を行っていたため、忙しさを理由に受験から遠ざかっていました。その後、結婚や子供が生まれることにより、私生活でも忙しさが増し、技術士の受験がいつそう遠ざかっていました。

忙しい日々を過ごしていましたが、技術士受験における社内の支援体制が充実し、受験しやすくなったことを機会に、再度チャレンジしようという思いになりました。

3. 技術士試験について

一次試験は、学生時代に受験してから 19 年ぶりとなりました。そのときは、業務の多忙を言い訳にほとんど勉強せずに挑み、案の定不合格となりました。翌年はその反省をして、きちんと勉強してから挑み、無事合格することができました。

二次試験においては、一次試験合格発表後すぐに参考書を買ったりしましたが、実際に勉強を開始したのは 4 月に入ってからとなってしまいました。初めての 2 次試験の勉強は、講座を受講し、キーワードの暗記とそれを基にした論文を書く訓練をしました。そして、その初めての試験結果がⅠ必須とⅡ選択が A、Ⅲ選択が B となり、合格まであともう少しという結果でした。私はこの結果を見て、次回

は受かるだろうと、2 回目は勉強を怠りました。結果は不合格となり、慢心は禁物だと身をもって知りました。そして、「次は絶対に合格する!」と気を引き締めました。

私の場合は、主にⅠ必須とⅢ選択の勉強を重点的に行い、効率的に勉強を進めるようにしました。Ⅱ選択においては、今までの業務で得た知識や経験を生かすことができ、勉強時間を削減できたと思います。普段の業務においても、技術士受験を意識しながら行ったことが、効率的に知識や経験を得られた要因と考えられます。また、毎日 30 分でも勉強する習慣にしたことも良かったと思います。

口頭試験は、筆記試験合格発表から 1 ヶ月後の口頭試験期間初日となりました。合格発表まで何も準備をしていなかった私は、準備が間に合うか不安になり、慌てて申込時の詳細業務を確認するなどの準備にあたりました。正直、筆記試験をもう一度受験するモチベーションを保つ自信がなかったので、口頭試験での不合格は絶対に避けるつもりでした。

口頭試験対策としては、社内の技術士による模擬面接をし、社外の模擬面接も受講しました。口頭試験本番では、準備や対策を行ったおかげで比較的緊張をせずに受験することができ、試験の手応えもありましたが、合格発表まではやはり気が気ではありませんでした。無事合格を確認したときには、安堵の気持ちでいっぱいでした。

4. おわりに

家族に対しては、家族サービスなどの機会を減らしてしまい、申し訳ない気持ちもありますが、子供たちに普段仕事する姿を見せることができない分、技術士取得に向けて頑張る姿を見せられた事は良かったと思っています。最後に、この場を借りてご指導していただいた皆様に感謝を申し上げます。